

序章	長期構想委員会の概要
第1章	港湾及び背後地域の現況
第2章	目指すべき方向性
第3章	港湾への要請と課題
第4章	境港が今後担うべき役割
第5章	境港の長期構想における施策の展開方向
第6章	将来の空間利用計画

境港への要請と課題への対応(案)

分類	社会的要請・課題	関係者からの主な要請・課題	課題への対応(案)
物流 ・ 産業	<ul style="list-style-type: none"> 船舶の大型化(コンテナ、バルク) 日本海側拠点港湾としての機能強化 	<p><コンテナ貨物への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶の大型化への対応した岸壁の増深・延長確保、ヤード拡張等が必要。 ガントリークレーンの能力不足。 リーファー電源の不足。 航路サービスの充実が必要。 荷役対応の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンテナターミナルの整備 ○新規ふ頭用地の造成 ○リーファー電源の増設 ○ガントリークレーンの増設 ○航路誘致活動 ○AIやIoTを活用した荷役の効率化
	<ul style="list-style-type: none"> 農水産品輸出ニーズへの対応 	<p><バルク貨物への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶の大型化に対応した施設整備(増深、延長確保)が必要。 クルーズ船とのバッティングへの対応が必要。 新規貨物(バイオマス発電関連貨物など)の増加により、バルク貨物の用地が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ○バルク対応の施設整備 ○新規ふ頭用地の造成 ○用途を踏まえたゾーニング
	<ul style="list-style-type: none"> シャーシ相互通行など多様な国際複合一貫輸送サービスの実現 	<p><内外貿フェリー・RORO貨物への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 内航のハブや対北東アジアとのハブとしての可能性の検討。 国際フェリー航路のターミナルの狭隘化、貨物スペース不足への対応が必要。 関東や九州向けの出荷について海上輸送ニーズへの対応(航路開設)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際フェリー航路による貨物輸送の推進。 ○シャーシ相互通行の実現に向けた検討 ○内航定期航路の開設に向けた誘致活動 ※竹内南地区の貨客ターミナル供用開始により、スペース不足等には対応見込み
		<p><外郭施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> 静穏度に課題がある施設がある。 また新規整備の施設について、風の影響や反射波の影響など、不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静穏度を確保するため泊地改修等の施設整備 ○航路の見直し
		<p><背後とのアクセス道路の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> 国道431号の渋滞や境港が物流・人流の両面において問題となっており、境港～米子間のアクセス道路の改善が課題。 竹内から江島に向けた道路が渋滞している等、物流・人流の島根県側へのアクセス不足も考慮すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○境港－米子間の高速道路の整備 ○境港－島根間の道路網の整備

境港への要請と課題への対応(案)

分類	社会的要請・課題	関係者からの主な要請・課題	課題への対応(案)
物流 ・ 産業	<ul style="list-style-type: none"> ・船舶の大型化(コンテナ、バルク) ・日本海側拠点港湾としての機能強化 ・農水産品輸出ニーズへの対応 ・シャーシ相互通行など多様な国際複合一貫輸送サービスの実現 	<p><土地利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浚渫土砂の受け入れを検討すべき。 ・外港北物揚げ場の陸地化を望む。 ・中野地区は漁港に近接しており、配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規ふ頭用地の造成 ○ふ頭用地整備、ゾーニング
		<p><倉庫・保管機能の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫が不足気味(製紙工場関連)。 ・境港には米の置き場がなく、広島や東京まで輸送している。 ・単板等を保管するための倉庫が少ない。 ・低温管理のできる公共上屋が不足。 ・冷凍倉庫の老朽化。 ・2020年フロン全廃に対応した冷蔵倉庫等のリプレースの遅れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふ頭用地整備による倉庫用地の確保
		<p><港湾サービスの充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・境港は利用頻度の少なさから、タグボートが常駐しておらず、タグボートの使い勝手が悪い。 ・将来の入港隻数増を鑑みれば、タグボートは不足する見通し。 ・鳥取港、浜田港の利用状況も踏まえた、タグボートの運用を検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当港関係船会社、他港関係者等と協議し、タグボートの円滑な利用を図るための方策を検討
		<p><物流全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラックドライバーや港運業者が少ない。 ・荷役コストが高い。 ・超過船及び岸壁対象船種類外船舶入港着岸の常態化。 ・航路・泊地も含め、船舶の大型化、及び操船者にゆとりのある対応。 ・第1航路と第2航路の重複。 	<ul style="list-style-type: none"> ○AIやIoTを活用した荷役の効率化 ○船舶の大型化を踏まえた岸壁整備、及びゾーニング ○航路の見直し、及びゾーニング

境港への要請と課題への対応(案)

分類	社会的要請・課題	関係者からの主な要請・課題	課題への対応(案)
人流 ・ 賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船寄港増への対応 ・インバウンド旅客への対応 	<p><国際フェリー・クルーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹内南地区における商業施設等の立地。 ・境港駅との接続バスの運行頻度の増加。 ・クルーズ客と市民が集う賑わい交流拠点や海の駅の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物流と人流のゾーニング ○公共交通機関とのアクセスの改善 ○クルーズ船誘致と受入体制の強化
		<p><マリーナ・釣り施設等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリーナの早期整備。保管能力の向上。 ・人工海浜の整備。 ・航路幅が狭く、船舶の行き会いが困難。 ・沖合も睨んだ釣り棧橋の整備とその開放。 ・緑地の有効活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○陸上保管施設(ヤード)の拡充 ○沖合展開も睨んだ魚釣り施設の整備 ○他のレクリエーション施設との連携検討
安全 ・ 安心	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害への対応／リダンダンシー確保の重要性の高まり ・ドライバー不足によるモダルシフトニーズへの対応 ・広域バックアップ機能の確保 ・進むインフラの老朽化への対応 ・少子高齢化による労働者不足への対応 	<p><大規模災害等への対応・広域バックアップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪対応が民間のみで不十分なため、対応が遅れ、ポートクローズが発生。 ・太平洋側ルート被災時の代替輸送を担うバックアップ機能の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内航定期RORO航路の開設 ○境港BCPIにおける除雪対応の位置づけ ○迅速な代替輸送に対応するための体制づくり
		<p><インフラの老朽化・少子高齢化への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーチスタッカーやトップリフターなど荷役機械の老朽化。 ・岸壁など港湾施設全般の老朽化が進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの利活用によるインフラの維持管理の効率化 ○施設老朽化を踏まえた貨物の集約化及びふ頭再編 ○AI,IoTを活用した荷役等の効率化

境港への要請と課題への対応(案)

分類	社会的要請・課題	関係者からの主な要請・課題	課題への対応(案)
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルポートとしての機能強化 ・再生可能エネルギー需要への対応 	<p><リサイクルポート・エネルギー産業支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス発電関連貨物の受け入れ機能強化。 ・リサイクル関連施設も含めたリサイクルゾーンの設定が必要。 ・鉄スクラップの輸出ニーズに対応した岸壁・ヤードの整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギー産業の港湾利用ニーズへの対応 ○リサイクル資源の取り扱い機能の強化
		<p><環境への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺工場の副次的なエネルギーの再利用。 ・港湾整備の生態系への影響への配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の環境活動に必要な行政支援の検討 ○必要に応じた環境アセスの実施

境港の課題への対応(案)

物流・産業

○ガントリークレーンの増設

○バルク対応の施設整備

○コンテナターミナルの整備

○リーファー電源の増設

○ふ頭用地整備による倉庫用地の確保

○用途を踏まえたゾーニング

○新規ふ頭用地の造成

○シャーシ相互通行の実現に向けた検討

○再生可能エネルギー産業の港湾利用ニーズへの対応

○リサイクル資源の取り扱い機能の強化

○AI, IoTを活用した荷役等の効率化

○静穏度を確保するため泊地改修等の施設整備

○国際フェリー航路による貨物輸送の推進

○公共交通機関とのアクセスの改善

○クルーズ船誘致と受入体制の強化

○物流と人流のゾーニング

○他のレクリエーション施設との連携検討

環境

○企業の環境活動に必要な行政支援の検討

○航路の見直し

○内航定期RORO航路の開設

人流・賑わい

○マリーナ陸上保管施設(ヤード)の整備

○船会社など関係者と協議し、タグボートの円滑な利用を図るための方策を検討

○マリーナ堆砂対策

○必要に応じた環境アセスの実施

○ICTの利活用によるインフラの維持管理の効率化

○境港BCPにおける除雪対応の位置づけ

○迅速な代替輸送に対応するための体制づくり

安全・安心

境港が今後担うべき役割(将来像と目標)

物流・産業

【将来像】北東アジアとのゲートウェイとなる中国地方日本海側拠点港湾

- 目標1 北東アジアとの国際定期航路(コンテナ・フェリー)サービスの充実による北東アジアゲートウェイ機能の形成
- 目標2 背後圏の産業活動を支え、地域の発展に寄与する港湾の形成

人流・賑わい

【将来像】魅力ある山陰観光と連携した交流拠点港湾

- 目標3 背後圏と連携したクルーズ拠点、観光客や市民が親しめる親水空間・賑わい空間の形成
- 目標4 レクリエーションやマリンスポーツの振興に寄与する港湾の形成

安全・安心

【将来像】国土の強靱化を支える境港

- 目標5 市民生活や背後圏企業のBCPを支える港湾の形成
- 目標6 中国地方の広域バックアップ機能を担う港湾の形成

環 境

【将来像】豊かな自然環境と共存し、環境関連産業を支える港湾

- 目標7 豊かな自然環境と共存し、地域の魅力向上に寄与する港湾の形成
- 目標8 持続可能な循環型社会を支える環境先進港湾の形成